

はじめに

生成 AI を始めとした情報技術が急速に進展するとともに、国家間の紛争の解決に向けては未だ多くの障壁が見られ、国際秩序の混迷が深まるなど、正にVUCAの時代の到来を感じます。こうした中、我が国では、子供達の未来に向けた教育改革が進められ、学校現場では試行錯誤が続いています。令和 2 年度からは、小学校及び特別支援学校において、現行の学習指導要領が実施され、その後、中学校が続き、今年度は、高等学校3学年までの実施となりました。この間、新型コロナウイルス感染拡大もあり、教育現場においては、さまざまな対応が求められましたが、GIGA スクール構想は着実に進み、ICT機器の活用等、子供達の学習環境は大きく変化しました。さらに、令和 3 年には、「令和の日本型学校教育」の構築を目指しての答申、令和 4 年には、「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方についての答申が示され、その後、教育公務員特例法等の改正により、研修履歴の記録の作成と指導助言等の仕組みが始まり、学習指導要領の着実な実施とともに、学び続ける教師への期待が一層高まっています。

一方、令和 4 年に実施された PISA 調査では、全ての分野において日本は世界でトップレベルの水準を維持し、レジリエントな国と評価されました。これは、前述の「令和の日本型教育」の実現に向けて、教育実践を丁寧に積み重ね、子供の学びを支えようとする先生方の献身的な努力によるものだと思います。今後も、子供達が社会の形成者として自立できるように、学校を支える全ての関係者が、子供たちのロールモデルとなり、「学び合い、高め合える」学校文化を築き上げ、各校の教育活動が充実していくことを切に願っております。

さて、愛知県総合教育センターでは、教育に関する専門的・技術的事項の研究、教育関係職員への研修、教育相談、教育に関する情報収集・提供及び農業教育に関する生徒実習指導などを、学校や教育委員会と連携しながら推進しています。特に、今年度の当センター研究発表会では、「子供たちの可能性を引き出す『令和の日本型学校教育』の学びの在り方(2 年次)」というテーマを掲げ、「自ら学ぶ力の育成に関する研究」「全国学力・学習状況調査に関する研究」「『探究の過程』を踏まえた授業の改善と充実に関する研究(理科)」「『主体的に学習に取り組む態度』の評価に関する研究(英語)」についての研究成果を発表しました。本研究紀要には、令和 6 年度教育研究調査事業からセンター発表会において発表した研究等の成果を収録しています。本研究紀要が、各校での教育研究、教育実践、研修等の一助となれば幸甚です。なお、本研究紀要は、当センターのウェブページ及び、図書資料室にて閲覧でき、さらに、ウェブページには、過去の研究成果や各教科の研究成果等の教材コンテンツも提供していますので、併せて御活用ください。結びに、本研究紀要を刊行するに当たり、教育研究調査事業に多大なる御協力をいただきました関係者の方々に心から感謝の意を表しますとともに、皆様の忌憚のない御意見、御助言を当センターにお寄せくださいますようお願い申し上げます。

令和 7 年 3 月

愛知県総合教育センター

所長 山脇 正成